

# ● ダイコン新品種『夏元太』の 特性と栽培のポイント



雪印種苗(株) 中央研究農場

安達英人

## 1 はじめに

ダイコンは冷涼な気候を好むため、高温期の栽培は難しく、収量も低いため、価格も高めで推移しています。

特に8～9月は北海道、東北の生産が主力で、天候の影響を受けやすいため、収量、品質とも安定した品種が望まれています。

このたび、弊社より晩抽性で品質が優れる冷涼地向け夏ダイコン『夏元太』(試作系統名S B 7014)を発表しましたので、ご紹介致します。

## 2 『夏元太』の特性 (表1,2 参照)

=晩抽性で、耐暑性と品質が優れる青首ダイコン=

### ① 安定した晩抽性

『喜太一』ほどではありませんが、夏ダイコンとしては抽苔は安定しています。

べたがけを併用した冷涼地のマルチ栽培では6月上旬からの播種が可能です。

### ② 尻詰まりが早く、総太り型によく揃う

高温時に根の伸びが良く、冷涼地のマルチ栽培では播種後55日ころより収穫できます。

根長38cm、根径7.5cm程度に良く揃い、根

表1 『夏元太』の生育特性

(雪印種苗・中央研究農場)

品種名	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (kg)	根形 (9~1)	尻つまり (9~1)	側根 (9~1)	青首 (9~1)	す入り (9~1)	抽苔率 (%)
《平成7年5月29日播種 7月24日調査 マルチ栽培》									
夏元太	36.0	7.6	1.40	5	5	7	3	6	40
品種K(S社)	34.9	7.7	1.04	4	4	8	6	4	90
《平成7年6月9日播種 8月2日調査 マルチ栽培》									
夏元太	36.9	7.5	1.38	4.5	4.5	5.5	4.5	6.0	0
品種K(S社)	36.5	7.3	1.24	3.0	3.0	7.0	5.5	5.5	5
《平成8年6月21日播種 8月19日調査 マルチ栽培》									
夏元太	35.2	7.6	1.25	4	4	6	3	6	0
品種K(S社)	34.7	7.7	1.26	5	5	8	5	4	0
《平成6年7月11日播種 9月2日調査 露地栽培》									
夏元太	36.6	7.2	1.25	5.0	5.0	6.0	4.0	7.0	0
品種K(S社)	36.9	7.3	1.34	4.0	4.0	6.0	4.5	4.5	0
《平成8年7月30日播種 10月9日調査 露地栽培》									
夏元太	33.0	7.2	1.29	7.0	7.0	7.0	4.5	6.5	0
品種K(S社)	30.0	7.3	1.19	6.0	5.5	7.5	6.5	6.0	0

表2 『夏元太』の生育特性

(雪印種苗・千葉研究農場)

品種名	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (kg)	根形 (9~1)	尻つまり (9~1)	側根 (9~1)	青首 (9~1)	す入り (9~1)	抽苔率 (%)
《平成8年4月23日播種 6月25日調査 マルチ栽培》									
夏元太	40.0	7.2	1.52	6.0	6.0	6.5	3.0	8.0	0
品種K(S社)	40.5	7.4	1.72	7.0	6.0	6.5	6.5	7.0	14
《平成7年8月31日播種 11月2日調査 マルチ栽培》									
夏元太	34.3	7.2	1.39	8.0	8.0	7.0	4.5	8.0	0
品種K(S社)	31.9	7.1	1.35	8.0	8.0	7.5	7.0	8.0	0

<評点> 根形: 9(総太)~1(円錐尖)、尻つまり: 9(極良)~1(極不良)、側根: 9(無細)~1(多太)、青首: 9(極濃緑)~1(白)、す入り: 9(無)~1(甚多)

形も戻つまりが早く、総太り型に良く揃います。

③ 草勢がおとなしい

草姿は半立性の濃緑葉で、肥沃地でも葉勝ちになりにくくおとなしいため、曲がり、裂根も少なく管理作業が容易です。

④ 耐暑・耐病性に優れる

高温期の栽培でも、軟腐病、萎黄病に強く、黒芯症、空洞症の発生はごく少なく、安心して栽培できます。

す入りは安定して遅く、2 L出荷でも問題になりません。

⑤ 品質が優れる

青首色は淡緑色ですが、肌つやが良く、市場性に優れます。

肉質は緻密で、す入りは遅く、内部品質が安定しています。

3 『夏元太』の適作型と栽培のポイント

『夏元太』は全国のマルチ、露地栽培に適します。以下に代表的な作型について紹介致します。

(●---●：播種期    ■：収穫期)

1) 北海道・マルチ栽培



① 播種と栽植密度

6月中下旬が最適播種期です。早播きは抽苔

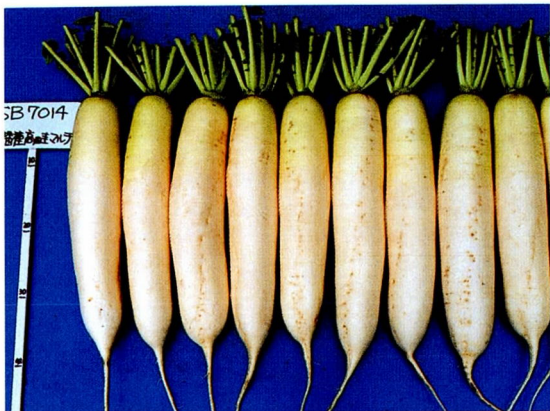


写真1 6月中旬播き、マルチ栽培（北海道）

の危険がありますので、べたがけの併用が有効です。

透明・銀ネズマルチの遅播きは高温障害が発生しやすいので、6月下旬播きまでとします。

条間60 cm×株間27 cmの2条播き栽培が適します。

マルチ規格9227 N (6,200本/10 a)

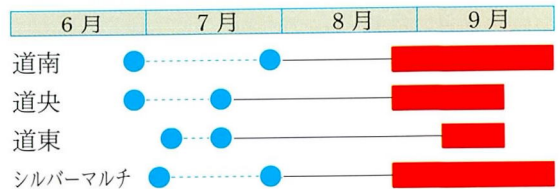
② 施肥

10 a当たり成分量で窒素4~6 kg、リン酸20 kg、カリ6~8 kgを標準としますが、播種が遅くなるほど施肥は少なめにします。

③ 管理

萎黄病に対しては比較的強い方ですが、激発地での作付けには土壤消毒を行う必要があります。生育日数は55~60日程度で、収穫適期も比較的短いので、収穫遅れにならないように注意します。

2) 北海道・露地栽培



① 播種と栽植密度

7月が播種適期ですが、べたがけを利用するか、シルバーマルチ栽培にすると根長が確保できます。

畦間60 cm×株間27~30 cm栽培が適します。

シルバーマルチ規格9227 S, 9230 S (5,600~6,



写真2 8月上旬播き、露地栽培（北海道）

本/10 a)

### ② 施肥

10 a 当り成分量で窒素 3～5 kg, リン酸 20 kg, カリ 5 kg を標準としますが, 7 月下旬以降は増肥します。シルバーマルチ栽培は露地栽培の 2 割減の施肥量とします。

生理障害対策として FTE を 4～6 kg/10 a 施用します。

### ③ 管理

生育日数は 55～60 日程度です。

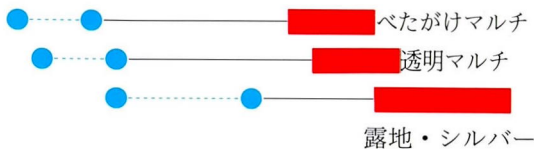
軟腐病, 横縞症が発生する作型なので, 排水の良い圃場で高畦栽培とし, 防除を徹底します。

高温期の栽培では, 首部が細くなったり, 尻部が大きくなる場合がありますので, 施肥量には十分注意し, 初期生育～収穫期までスムーズな生育管理を行なってください。

### 3) 東北地方

6月	7月	8月	9月
----	----	----	----

#### ・東北平坦地 (青森県標準)



#### ・東北等の高原地帯



### ① 播種

早播きのべたがけ～マルチ栽培は地温が上がったのを確認してから播種してください。

### ② 施肥

露地栽培で N-P-K = 4～8-20-8/10 a を目安とします。N は 6 kg/10 a を基本としますが, 高温期には減らし (4 kg/10 a 程度), 7 月の遅播きは追肥を含め 8 kg/10 a 程度とします。また, 前作の残肥が多い畑ではより減肥を行なって下さい。なお, マルチ栽培では露地栽培の 2 割減の施肥として下さい。

### ③ マルチ

マルチを使用する場合は, 早播きは透明マルチを, それ以降は品質対策を含めシルバーマルチとして下さい。



写真3 9月上旬播き, マルチ栽培 (千葉県)

### 4) 一般地, 暖地の春播き, 晩夏～秋播き

#### ① 春播き栽培

4月	5月	6月	7月
----	----	----	----



・早播きは透明マルチ, 遅播きはシルバーマルチ栽培とします。

施肥量は N-P-K = 3-20-8 kg/10 a を目安とします。

生理障害に強く, 安心して収量が確保できます。

#### ② 晩夏～秋播き栽培

8月	9月	10月	11月	12月
----	----	-----	-----	-----



・早播き～適期播きとも揃い性, 歩留まりが良く, 特に肥沃な条件で作りやすいのが特徴です。

遅播きは短根や肥大遅れの原因となりますので, 地温の確保として透明マルチを使用します。

施肥量は N-P-K = 3～15-20-10 kg/10 a を目安とし, 低温期になるに従い, 多めにします。

## 4 むすび

本年の北海道・東北の天候は低温・日照不足であったため, ダイコンには早期抽苔, 内部変色等が発生し, 大きな問題となりました。

『夏元太』は晩抽性で耐暑・耐病性に優れ, 品質の安定した品種として期待されています。

なお, 『夏元太』は平成9年より新発売を予定しておりますので, 試作展開については品種の特性を良くご理解していただき, 品質の良いものを穫るようにしていただければ幸いです。